

クリーニングクロス Toraysee® for CE

USER'S REPORT 1



～医療機器の保守管理の質の向上のために～

地方独立行政法人広島市立病院機構
広島市立安佐市民病院
MEセンター

生命維持管理装置をはじめ、人工呼吸器、保育器など院内で使用するあらゆる医療機器がMEセンターで管理されている。それらの装置を安心して使用できるように、日々の点検・メンテナンスはもちろんのこと機器を清潔に保つことは大変重要な業務である。このたび、地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立安佐市民病院MEセンターのスタッフの皆さんに、医療機器向け清拭クロス Toraysee for CE(以下トレシー)の使用経験についてお話を伺った。

MEセンターに求められる機器の清拭 「安全性」と「汚れの除去」



トレシーを使用し始めたきっかけは何だったのでしょか？

Answer

最近の医療機器はタッチパネル式のモニター画面が多く使用されていますが、手の接触による感染の伝播、汚れの付着による誤動作が気になります。また、環境クロス(消毒液を含浸した不織布)が原因と思われる画面に施されたコーティングが剥がれるということがありました。

そのようなことから、めがねを始めとする光学機器のレンズをキズ付けないで清拭効果の高いトレシーの導入を決めました。

※【装置写真提供】安佐市民病院MEセンター



IABP 装置



鼻マスク式
人工呼吸器



人工呼吸器



ベッドサイドモニター



ME 機器の清拭で気をつける点は何でしょうか？

Answer

医療機器に対する洗浄、消毒という定義は浸透していますが、消毒を行う場合には、第一段階の「洗浄(清拭)をよくおこなわなければ、消毒は有効でない」ということが、忘れられているような気がします。

また、消毒にあたっては機器を構成する部材の素材についても注意が必要です。例えば次亜塩素酸塩などは金属を腐食させるからです。トレシーを導入する以前は、はっきり言ってME 機器の清拭に適切な清拭資材がありませんでした。

現在、「トレシーは洗浄に特化したクロス」という位置づけで、洗浄と消毒を意識してME 機器の清拭に使用しています。

あらゆる機器にトレシーを使用できる可能性
「用途」「コストパフォーマンスについて」



他施設からトレシーは高額だとの意見もお聞きしますが・・・？

Answer

環境クロス清拭後の拭きむらが目立つことがあり(特に揮発性でないアンモニウム塩など)せっかく綺麗に清拭しても見栄えが悪く、どうしても乾燥した不織布での乾拭きが必要でした。特に保育器の亚克力部等は、加温加湿が開始されると綺麗にしたつもりでも再び拭きむらが浮かび上がる現象が認められましたが、トレシーに変更してからは、浮かび上がる現象がなくなりました。

また、シリジポンプなどの小型の機器は、1枚で30-40台の清拭(洗浄)を行っています。現状、環境クロスおよび乾燥の不織布(3種類)とトレシーを併用していますが、環境クロス減量分のコストがトレシーの分にまわったとの認識であり、廃棄ボックスの使用量も減少しました。

また、機器の損傷、劣化などを考えるとコストにかえられないものがあると思います。

●ステンレスの天面に天井が映りこんでいる写真



拭きむらが出ている加温加湿中の保育器



【環境クロスで清拭しただけの写真】
拭き取り痕(残渣)が残っている



【トレシーで仕上げ拭きをした写真】
拭き取り痕(残渣)が見られない



どのような機器にトレシーを使用していますか？

Answer

当MEセンターでは、様々な医療機材にトレシーを使用しています。例を挙げますと、現在、エタノールとアンモニウム塩の環境クロスを使い分けていますが、特に保育器などは、薬剤によるカバー損傷の懸念や、CDCガイドラインにも記載されているように新生児に対する薬剤の影響の懸念があるため、アンモニウム塩含浸の環境クロスでの清拭後、トレシーによる仕上げ拭きを行っています。



トレシーはそのまま使用していますか？湿らせて使用していますか？

Answer

軽く水で湿らせて使用しています。湿らせたほうが10倍に清拭効果が高まるというデータが示されているからです。また湿らせたほうが滑りも適度になり使用感もいいと思います。

当センターでは、機器の清拭後トレシーを廃棄する前に電源コードを拭いていますが、驚くほど汚れが落ちますので試してみてください。



今後はどのような用途を考えていますか？

Answer

ME機器であれば、どのような機器でも使用可能ですが、心電図モニタ等のリード線はアルコールを含有したものでの拭き取りがよく行われており、シールド効果の劣化による異常が認められることがあります。ME 機器にかぎらず、可動式の点滴台や理学療法器材など特に人の手や肌が触れやすく、消毒が頻回にできない器材への使用は有用と思われる。

また、聴診器、電子カルテ(ディスプレイ、キーボード等)など医療者の身の回りのものへの使用もよいと思われる。

トレシーによる除菌の可能性など関心のあるところですが、木製部分やウレタンゴムなど目地や表面に凹凸のあるもの、多孔質の部材などは目地や孔にマイクロファイバーが届かず、トレシーの清拭効果が充分発揮できない場合がありますので、ATPふき取り検査などで清拭効果を確認してから使用すべきと考えられます。

今後もATPふき取り検査の活用やトレシーに関する諸家の報告などを参考にして活用方法を検討していきたいと考えています。

